

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 045	提案機関名 みうら漁業協同組合
要望問題名 養殖ワカメの食害対策及びワカメ品種改良と種苗生産について	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 当支所では、漁閑期の冬場は、協組員の内14軒がワカメ養殖を営んでおります。 しかし、黒潮流路がA型になった5年前から沿岸水温が上昇し、養殖ワカメの生育不良が見られ、特に昨年は10月の仮沖出しや11月末の種挿し後の養殖海面で、アイゴ等による食害が酷く、漁家のワカメ養殖生産量が3~5割減少している。 そこで、下記事項をお願いいたします。 ①ワカメの品種改良について：海水温上昇に伴い種挿し時期が遅延するため、種挿し後に早く生育する ①早生わかめの開発。12月でも水温が17℃以上と高温のことがあるので、 ②耐高水温種苗の開発。メカブと特に葉が大きく育ち、肉厚で製品歩留りが良い、 ③葉の成長が良いワカメの開発 ②ワカメ種苗生産：ワカメ種苗生産漁家が高齢化し、相模湾の養殖ワカメ種苗生産を一手に担っている漁家が種苗生産からの撤退を検討しており、撤退後にワカメ種苗が不足することが想定されます。水産技術センターにはワカメ種苗の品種改良と合わせて、種苗生産に取り組んで頂きたい。 ③食害防護技術開発：超音波発信機等を使ったアイゴ駆除や、魚食性魚類の模型を使った水中案山子などの食害防止試験の実施をお願いします。(その他の海藻養殖や増殖でも応用できるものが理想)	
解決希望年限	①1年以内      ②2~3年以内      ③4~5年以内      ④5~10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考 冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、漁閑期の重要な収入源となっております。	

回答機関名	水産技術センター	担当部署	企画研究部
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 磯焼け対策事業費、フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発			
対応の内容等 ①現在、県内各地からワカメの母藻を取り寄せ、これらからワカメの種に相当するフリー配偶体の確保を実施しています。今後、これらの中から、早生ワカメ、高水温耐性、高成長などの優良株を選抜して、優良系統の開発を図って参ります。 ②水産技術センターによるワカメ種苗の生産・配布はできませんが、漁業者自身による種系生産の確保が出来るように、従来法よりも種系の作成が容易なフリー配偶体を用いた新しいワカメの生産方法について、漁業者と協力しながら開発、普及を進めて参ります。 ③漁閑期となる冬場のワカメ養殖は、漁業者の重要な収入源となっておりますが、近年、アイゴやボラ等による食害被害が発生するとともに、水温上昇等による生育阻害もあいまって、大きな影響を受けています。食害の防止を図り養殖筏を網で囲う「食害対策ネット」を設置する試験を行ったところ、対照の未設置筏ではアイゴによる壊滅的な食害被害があったのに対し、食害対策ネットを設置した養殖筏ではほとんど食害被害がなかった、というような結果も得られています。 引き続き、食害を減らすような筏の設置方法や養殖時期について工夫を行ったり、他県等での対策事例を収集			

・普及するなどすることで、食害被害の低減に努めてまいります。

なお、超音波発信機等を使った防除について成功事例は見あたりませんが、情報収集を続け、効果的な事例が見られた場合は効果の検証を検討します。

解決予定年限

① 1年以内

② 2～3年以内

③ 4～5年以内

④ 5～10年以内

備考